

未利用材の利用拡大に向けて現地勉強会を開催

[岐阜森林管理署]

国有林では、森林資源の有効活用や、再造林時の地拵コストの低減などを目的として、林地に残置されていた枝条・端材等の未利用材(D材)の有効活用に取り組んでいます。今般、岐阜森林管理署の主催により、管内の生産請負事業者及び地域の立木販売業者等を対象に、D材の搬出や流通等についての現地勉強会を開催しました。

勉強会では、岐阜県瑞穂市で木質バイオマス発電施設を運営している(株)バイオマスエナジー東海及びバイオマスチップ集荷業者である(有)エコヤードギフにもである(有)エコヤードギフにも参加をいただき、それぞれの立場から、自由活発な意見交換を行いました。

勉強会に参加した皆さんから出された意見のうち共通したものとして、「事前調整が非常に大切」というものがありました。これまで未利用となっていた枝条・端材等の集材・出荷行程は、既存の作業システムには当然ながら組み込まれていません。このことから、出材や運材等の関係者と事前に入念なコミュニケーションを取る必要があることは自明です。

今回の勉強会では、「中間土場等、林道に隣接した広めの土場に集積してほしい」というD材集荷業者側の意見と、「小まめに取りに来てほしい」という生産事業者側の意見など、様々な意見が双方から出されていました。このような率直な意見を、腹を割って出し合い、「出来ること」、「出来ないこと」の摺り合わせを事前にしっかり詰めておくことが、未利用材の利用拡大を推進するためのポイントの一つと考えます。



瑞穂バイオマスパワー

(木質バイオマス発電施設)